

津山市の未来について

津山新星会議



近藤 小椋 吉田 竹内(邦)

問 選挙公約として掲げた「公正・安心・安定の市政」、「市民目線の市政」とは。

答 私の政治スタイルは、偏りが無く、公平・公正な市政を実現し、市民が安心して暮らせる持

続可能なまちづくりを進めること。市政の主役は市民であるという視点を常に持って謙虚な気持ちで市政運営にあたること。

問 今後4年間の市政に対する想いは。

答 市民が未来に夢を持つことができ、活力あふれるまちを目指して全力で取り組む。当面は津山市の将来を描くことになる第5次総合計画の策定に全力で取り組む。

問 津山市成長戦略はいつの時点で着想を得たのか。

答 急激に進む人口減少や経済のグローバル化など、社会経済環境が大きく変革する中、持続可能なまちづくりのため、地域経済の成長と安定によって雇用環境を維持していくことが重要と考え、一昨年末から構想に着手した。

問 成長戦略に対する想いは。

答 地域資源や特色など津山市の強みを最大限に活かし、更なる地産地消と市域外からの需要の獲得という循環型の地域経済圏の確立を、4つの成長分野と(仮

称)つやま産業支援センターを中心とした横断的な取り組みによって実現したい。



問 津山城天守閣再建を第5次総合計画にどのように盛り込み、スケジュールを組むのか。

答 市民の意見・要望・そして次世代の考えも充分に聞きながら判断したい。

問 選挙戦ではあれだけ天守閣再建を全面に押し出していたのに、この答弁ではするのかもしれないか判断できない。これまでの経緯からしないとの判断は無いと思うが、今後の検討に期待したい。また、トップセールスによ

る企業誘致を進めるとあるが、どのように対応するのか。

答 企業誘致は市の最重要課題と位置づけ取り組んでいる。担当課との連携を密に図り情報を常に共有し、企業にとって最善の時期を見きわめた上で、津山市の代表として思いを伝えることが効果的と考える。またトップセールスは企業誘致にとどまらず企業留置にも力を入れており、津山市に立地する企業の本社を訪問し、ニーズや想いを直接聞いている。

問 新聞紙上で「地方分権の中で市民と協力して市政のかじ取りをすれば国、県とのパイプはあまり必要とまらない」と言っているが、この発言の真意は。

答 国や県とのパイプよりもむしろ市民目線を大切にすることに賛成してくれている人はたくさんいる。国や県とのパイプをあこれこれ言う時代ではない。またこれまでの4年間でいろいろな繋がりをつくっており、そのことを十分認識いただきたい。